

方と捉え方を伺う。

- ① 影響試算額の公表に対しての所見は。
- ② 畜産クラスター事業や産地パワーアップ事業等の本町の取り組み方と対策は。
- ③ 地方創生・人口減少対策を展開する上で、第1次産業への取り組みと対策について再確認する。
- ④ 不安の払拭と希望を持って営農できる環境整備について、どのように考えるか。

高薄町長

① 説明を受けたが、果たしてこの減少額で済むのかが疑問。農業は国策であるので、国や道の考えを見極めていきたい。

② 畜産クラスター事業は、本年3月に計画を見直し、平成28年度の計画を提出した。産地パワーアップ事業は道の方針を示すことになっており、それに合わせて計画を策定する。

③ 既存事業を集約して、農業振興対策事業の中に組み込み、バイオマスの

利活用と経営力の向上支援を図る。また、農業研修生の受入れや新規就農を目指す方への支援、さらには生産者も含めた食品加工製造の研究開発を行う機会を提供し、食品の検査・分析費用を支援する。

- ④ 関係機関と対策を協議して環境整備を進める。国や道の指針をしっかりと見極め、早いものであれば補正予算を組んで、新たな事業を展開していく。

国勢調査を受けての本町の今後のまちづくり



口田邦男議員

国勢調査が行われ、本町においても実態がわかったかと思われる。結果を分析して、今後のまちづくりを活かさなければならぬ。すでに総合戦略の中でも検討され、具

体的な施策も出されているが、単なる作文にならないよう、総合戦略の実効性について町長の考えを伺う。

高薄町長

国勢調査の速報値では、前回に比べ3・6%の人口減少にとどまった。減少率は予定よりも低く、この4年間は健闘している方だと思つう。

この結果は基幹産業である農業が町を支えているからであり、農業の好調が2次産業、3次産業へとつながり、本町の人口減少対策にもなっている。総合戦略も国勢調査の結果をしっかりと検証して施策に移す必要がある。当然、財政規律を維持しながら、有効性や優先順位などを決めて進める。

農業の発展と商工業の振興

口田邦男 議員

昨年は本町の基幹産業

である農業が好天に恵まれ、畑、畜産ともに好成績を挙げるに至った。確定申告においては多額の税が発生し、対応に追われているようだが、本町の商工業にはどのような影響があったのか。

高薄町長

帯広市を中心に、十勝全体の購買力が上がったことは間違いない。本町のプレミアム商品券は6月と12月に発行し、いずれも完売している。全体で1億2千万円分を出しているの、そこから手数料などを引いた約8千万円が町内の経済を喚起したことになる。大型店5店での利用率は約50%で、残りの50%は町内の小売店で使われてお

り、影響と効果は相当あったとみている。

情報発信の必要性と今後の取り組み・考え方



鈴木孝寿議員

本町を訪れる人や興味を持たれた人がパソコンなどで清水町のホームページを検索することは容易に想像できるが、観光や住宅、就労等の情報が非常に少なく感じる。移住・定住、そして観光を意識した広報戦略を、今後どのように取り組む考えがあるのか。

① WEB上での広報活動の重要性とその認識について伺う。

② SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）への取り組みについて伺う。

③ 各課が連携した今後の広報活動に対する取り組みについて伺う。

みについて伺う。

高薄町長

- ① 世代によって活用の幅は異なるが、移住・定住などの情報発信には最も有効なものであると認識している。
- ② SNSの利用が進んでいるのは確かであるが、多様な情報をどう伝達するか、情報の精度や量を整理しなければならぬ。また、書き込みによるトラブルなどの課題がある。
- ③ 現在は企画課広報広聴係が各課の情報を集約して広報活動を行っている。各課が協働・協調で情報の管理研修や伝達方法の研究を行い、改善していきたい。

公共施設等総合管理計画への考え方

鈴木孝寿 議員

平成26年4月に総務省から都道府県に通知された公共施設等総合管理計画は、老朽化に対して長